



世界的な教育モニタリング報告書

2023年

教育におけるテクノロジー:

誰の条件に応じたツール?



Sustainable
Development
Goals



Global
Education
Monitoring
Report

世界的な教育モニタリング報告書



2023年

教育におけるテクノロジー:

誰の条件に応じたツール?

教育2030に川宣言と行動枠組では、グローバル教育モニタリング報告書の任務は「SDG 4および他のSDGsにおける教育をモニタリングおよび報告するメカニズム」であると明記されており、その責任は「目標4の実施について報告する」というものである。SDG全体のフォローアップとレビューの一環として、関連するすべてのパートナーが自らのコミットメントを説明できるよう支援する国内外の戦略。」ユネスコが主催する独立チームによって作成されています。

この出版物で使用されている名称および資料の提示は、いかなる国、地域、都市、地域の法的地位、またはその当局の法的地位、またはその境界に関するユネスコ側のいかなる意見の表明も意味するものではありません。そのフロンティアまたは境界。

グローバル教育モニタリング報告書チームは、本書に含まれる事実の選択と提示、およびそこで表明された意見に対して責任を負いますが、これらの意見は必ずしもユネスコのものではなく、組織の関与もありません。報告書で表明された見解や意見に対する全体的な責任は、そのディレクターが負います。

この出版物は、UNESCOとして参照できます。2023.グローバル教育モニタリング レポート2023:教育におけるテクノロジー – 誰が利用するツール?パリ、ユネスコ。

© ユネスコ、2023
初版

国連教育機関によって 2023 年に出版され、
科学文化機関
7, Place de Fontenoy, 75352 Paris 07 SP, フランス

ユネスコによる植字

グラフィックデザイン : Optima Graphic Design Consultants Ltd
レイアウト : Optima Graphic Design Consultants Ltd

写真キャプション: カナタ T ウェルの学生
マナウス (ブラジル)の学校での訓練を完了
ProFuturo 教育で利用できるデジタル コンテンツ
プラットフォーム。

写真提供者: © Ismael Martínez Sánchez-8308 / ProFuturo

ISBN: 978-92-3-100609-8

改訂版

<https://doi.org/10.54676/UZQV8501>

この出版物は、表示 - 継承 3.0 IGO (CC-BY-SA 3.0 IGO) ライセンス (<http://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/igo/>) に基づいてオープン アクセスで入手できます。

この出版物のコンテンツを使用することにより、ユーザーはユネスコ オープン アクセス リポジトリ (<https://www.unesco.org/en/open-access/>) の使用条件に拘束されることに同意するものとします。cc-to)。

アスタリスク (*) が付いている画像は、「<https://creativecommons.org/licenses/by-sa/3.0/igo/>」に該当しません。

CC-BY-SA ライセンスのため、使用または複製することはできません
著作権所有者の事前の許可なしに。



短い要約

テクノロジーは教育における最も重要な課題を解決できるでしょうか？

デジタル テクノロジーの導入により、教育と学習に多くの変化がもたらされましたが、多くの人が主張しているようにテクノロジーが教育を変革したかどうかについては議論の余地があります。デジタル技術の適用は、地域社会や社会経済レベル、教師の意欲と準備、教育レベル、国の収入によって異なります。最も技術的に進んだ国を除いて、コンピューターやデバイスは教室で大規模に使用されていません。さらに、その影響に関する証拠はまちまちです。

デジタル テクノロジーの使用に伴う短期および長期のコストは、大幅に過小評価されているようです。最も恵まれない人々は通常、恩恵を受ける機会を与えられません。

「誰の条件に基づくツールか？」という問いにおいて、報告書は、教育分野の外で設定されたテクノロジーに対する規制が必ずしも教育のニーズに対応するとは限らないことを示しています。これは #TechOnOurTerms キャンペーンとともにリリースされ、教育におけるテクノロジーの適用が適切、公平、証拠に基づいており、持続可能であるかどうかを評価した後、学習者のニーズを優先するための決定を行うよう呼びかけています。

これは、政策立案者がこれらの決定を下す際に使用する羅針盤を提供します。意思決定の立場にある人は、自分たちの置かれている状況を俯瞰し、テクノロジーが自分たちの状況や学習ニーズに適切であるかどうかを確認するよう求められます。彼らは、取り残された人々を振り返り、疎外された人々に焦点を当てているかどうかを確認するよう求められます。彼らは、影響に関する証拠と、十分な情報に基づいた意思決定を行うために必要な全コストに関する十分な情報があるかどうかを確認するよう促されます。そして最後に、彼らは将来を見据えて、自分たちの計画が持続可能な開発のビジョンに適合しているかどうかを確認するよう求められます。

この報告書は、デジタル技術の有無に関わらず生活する方法を学ぶことの重要性を強調しています。豊富な情報の中から必要なものだけを取り出し、必要のないものは無視すること。教育と学習の基盤となる人間のつながりをテクノロジーにサポートさせますが、決してそれに取って代わることはありません。デジタルインプットではなく、学習成果に焦点を当てるべきです。学習を向上させるためには、デジタル テクノロジーは教師との対面でのやり取りに代わるものではなく、それを補完するものである必要があります。

第6回グローバル教育モニタリング レポートをサポートするのは、世界の教育システムにおけるテクノロジーに関連する政策と規制を説明する政策対話リソースである PEER に関する新しい一連の国プロフィールです。

費用がかかります
貧しい国の教育の
接続を維持するた
めに1日あたり
10億米ドル



戦争は男性と女性の心の中で始まるので、平和を守る
ものは男性と女性の心の中で構築されなければなりません

序文

新型コロナウイルスのパンデミックの間、インターネットだけでなくラジオやテレビを介した遠隔学習ツールが、いかに便利で必要であるかを示しました。しかし、彼らは同時に限界も明らかにしました。

実際、この時期は、技術的ソリューションをあらゆる状況に適した普遍的なツール、進歩の避けられない形とみなす根深い傾向を浮き彫りにしました。ツールとソリューション、手段と目的の間のこの混乱は、このレポートが3つのパラドックス、つまりよくある3つの誤解を強調することによって、私たちが対処するよう促しているものです。

まず、個別化された学習が約束されています。非常に多くの場合、この力強い希望は、教育の中心にある基本的な社会的および人間的側面を忘れさせます。明白なことを繰り返しておく価値があります。教師の人間性を画面に置き換えることはできません。2021年に発表されたユネスコの「教育の未来」報告書で強調されているように、教師とテクノロジーの関係は補完的な関係でなければならず、決して代替可能な関係ではありません。

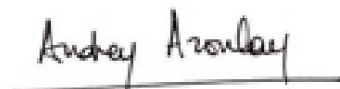
テクノロジーのおかげで教育へのアクセスが容易になると期待されていますが、現実にはデジタル格差が依然として存在し、実際に教育格差が拡大しているのが現状です。これがこの報告書が強調する2番目の矛盾です。パンデミックの間、生徒の3分の1近くが遠隔学習に効果的にアクセスできませんでした。現在、インターネットにアクセスできる小学校は世界中で40%だけですから、当然のことです。たとえ接続性が普遍的だったとしても、特に過剰な画面のリスクを誰もが認識し始めている現在、デジタル技術が効果的な学習という点で真の付加価値を提供していることを教育学の観点から実証する必要があるだろう。時間。

最後の矛盾は、決して重要ではありませんが、教育を世界共通財にしたいという願望にもかかわらず、教育における商業的および私的利益の役割が増大し続けており、そこに伴うすべての曖昧さが伴います。7か国で教育データのプライバシーが法的に保証されています。

これら3つの落とし穴は回避できるため、私たちのレポートでは羅針盤として機能する2つの強力な推奨事項を示しています。まず、生徒の最善の利益が他のあらゆる考慮事項、特に商業的な考慮事項よりも体系的に優先されるべきであると推奨しています。第二に、テクノロジーは決して目的ではなく手段として見られるべきであると推奨しています。

これらの勧告を現実にするために、ユネスコは加盟国に対し、教育技術の公正、公平かつ安全な発展を確保するよう求めています。これは、適切な規範的な枠組みを確立し、プライバシー、データへのアクセス、差別の禁止、スクリーンタイムなどの基準を設定することを意味します。それはまた、接続性とオープンな教育リソースへのアクセスをサポートし、これらの新しく絶えず進化する問題について教師を訓練するために、野心的な公的活動と国際協力プログラムを立ち上げることも意味します。

したがって、この報告書の結論は、特に遠隔地で実際に機能する教育方法を特定し、これらの主題に関する研究を継続して一般の行動に情報を提供することによって構築するための出発点となります。常に同じ目標を念頭に置いて、テクノロジーが教育に役立つようにすることであり、その逆ではありません。



オードリー・アズレー
ユネスコ事務局長

序文

教育と技術革新は本質的に結びついています。新しいアイデアはデジタル変革につながり、それが教育システムの改善にフィードバックされます。教育とテクノロジーを組み合わせることで、総合的なシステムレベルの品質向上と公平性の向上につながります。

大臣になる前、私は教育を受けて複数のテクノロジーを活用して、切迫する方向の義足ソケット、つまり人々がより快適に歩くことを可能にするシステムを開発することに取り組みました。学校に歩いて行き、人生を生きていくために。当時、基礎教育および高等中等教育大臣として、またシエラレオネ政府の最高イノベーション責任者としての私の役割は、このつながりと、テクノロジーを実現要因として想像することから得られる利点を引き続き活用していました。

この報告書は、教育とテクノロジー、特にデジタルテクノロジーとの関係がいかにデリケートであるかを浮き彫りにしている。教育目標を達成するためにテクノロジーをいつどのように使用するか、使用しないかを理解することは、21世紀の教育リーダーにとって重要なスキルになりつつあります。たとえば、教育システムによって生成されたデータを処理し、それを使用して教育システムの有効性と効率を向上させ、すべての子どもたちの教育ニーズに応えることで得られる利点は複数あります。

シエラレオネでは、私たちはこれを理解しています。テクノロジーによってもたらされるデータは、子供たち一人ひとりの学習が正しい道を進んでいることを確認するのと同じように、教育システムの健全性を把握するのにも役立ちます。抜本的なインクルージョンを求める私たちの取り組みは、データによって促進されているだけでなく、データに依存しています。誰も取り残されないように全員を数えます。私たちの EdTech 戦略は、すべての学習者と教師に包括的で質の高い教育を提供するという長期的なビジョンとしっかりと同期しています。

それがうまく機能している場合、教育システムで生成されたデータは、状況を改善するために実装する必要があるポリシーの最良のガイドとなります。これは、教師、学校長、教師、保護者、地域社会と同様に、政策立案者にも当てはまります。小学校の指導者は現在、タブレットを使用して動的データを収集し、学校を管理するために適用する準備ができています。教師の登録、生徒の登録、出席を監督するため。

スピードと効率の面でメリットがあります。これには、2018年以來行ってきた、生徒と学校の一意の識別子に基づくシステムの構築が含まれます。デジタル化された年次学校国勢調査は、両方が必要であるにもかかわらず、多くの物理的な検査訪問よりもはるかに早く問題を指摘できます。

学校における不平等や非効率なリソース配分などの問題領域も、その解決策を視覚化できれば防ぐことができます。このレポートは、地理空間データの使用がまさにそれを実現することを思い出させます。低所得国や下位中所得国では最も必要とされているにもかかわらず、依然として初期段階にあります。シエラレオネでは、貧困、人口、洪水リスクのデータに基づいて新しい学校の所在地を検討する GIS ツールを使用して、これらのイノベーションを最大化する方法を検討しています。それは私たちの盲点はどこにあるのかを特定します。改善できる点はどこでしょうか。そして私たちが学ぶことができる場所。

効率性の利点は、場合によっては、政策改革を広範囲かつ迅速に展開するテクノロジーの能力によってもたらされることもあります。

この報告書には、たとえば教師の専門能力開発などにテクノロジーを利用することで得られる否定できない利点を各国がますます認めていることが記載されています。これにより、場所や時間に関する障壁が取り払われます。費用対効果が高く、教師間のコラボレーションを促進し、教育実践を改善します。シエラレオネでは、オーディオ、ビジュアル、デジタル リソースと印刷されたワークブックを組み合わせることで教師のトレーニングを強化し、最初からテクノロジーの可能性に関する興奮を教育学に取り入れています。

しかし、このレポートは、テクノロジーに精通した新しい管理システムへのシームレスな移行が必ずしも簡単または安価ではないことも示しています。当然のことかもしれませんが、教育管理に対するテクノロジーの期待される利点とその実現の間にはギャップがあります。インフラストラクチャのメンテナンスや修理など、一見些細な問題は無視されたり、過小評価されたりすることがあります。学習分析を設計するときに、学習を改善するという目的そのものが忘れられることがあります。

私たちは自分の能力とリソースを考慮することを忘れるかもしれません。

ダッシュボード、チャート、テーブルを使用するデータに基づいたシステムを構築するには、強力な学校のリーダーや革新に意欲的な自信に満ちた教師など、このレベルの変化を吸収する能力も前提となります。データ リテラシーを備えた幅広い人材が必要ですが、多くの状況ではこれは当てはまりません。

私たち全員が団結する唯一の点は、非常に多くのツール、非常に多くのプレーヤー、さまざまなオペレーティング システム、そして何が機能するかについての矛盾した研究が非常に多く、めまいがする可能性があるということです。したがって、このレポートで EdTech Hub などのパートナーとの協力が見られ、意思決定のための証拠の重要性について日々業務を行っている強力な関係者が結集していることを嬉しく思います。

GEM 報告書の諮問委員会の議長として、私はすべての政策立案者に対し、この報告書を注意深く読み、貴国の PEER 国のプロフィールを他国と比較するよう強く勧めます。何よりも、テクノロジー、特に生成 AI の普及が私たちの分野に浸透し続けているため、私はすべての人にその推奨事項を適用することをお勧めします。そうしないとリスクが多すぎます。私たちがテクノロジーに精通したいのであれば、構築したい教育システムについても精通していなければなりません。私は #TechOnOurTerms キャンペーンを支持します。私たちの SDG 4 の条件は交渉の余地がありません。

デビッド・モイニナ・センゲ博士
シエラレオネ首相
GEMレポート諮問委員会の委員長

謝辞

この報告書は、多くの人々や機関の貴重な貢献がなければ不可能でした。

Global Education Monitoring Report (GEM Report) チームは、彼らのサポートに感謝し、時間と労力を費やしてくれたことに感謝したいと思います。

GEM レポート諮問委員会のメンバーとその委員長である David Sengeh は、建設的な指導とフィードバックを提供しました。GEM レポートの出版物の準備、リリース、配布を保証する財政的支援により、私たちの献身的な資金提供者に特別な感謝を捧げます。

我々はユネスコの役割とそのリーダーシップを認識したいと思います。私たちは、日々の業務を促進して下さったユネスコ本部の多くの個人、部門、部隊、特に教育部門やさまざまな行政サービスに感謝します。ユネスコ統計研究所は主要なデータプロバイダーとして重要な役割を果たしていますが、特に国内の SDG 4 ベンチマークプロセスにおける SDG 4 モニタリングのサポートにおけるパートナーシップを通じて重要な役割を果たしています。ディレクターのシルビア モントーヤと彼女の献身的なスタッフの緊密な協力に感謝いたします。さらに他のユネスコ機関の同僚とその地域および現地事務所のネットワークに感謝します。

背景研究に直接貢献したユネスコの同僚やコンサルタントには、教育情報技術研究所 (ナタリア・アメリカナとスヴェトラーナ・クニャゼヴァ、ディヴィナ・フラウ＝メイグス、ニール・ブッチャー、アリソン・ジマーマン、リズベット・リーヴィー、カースティ・フォン・ゴッホ) が含まれる。ラテンアメリカおよびカリブ海の国際高等教育研究所 (ビクトリア・ガラン＝ムロス、アレブ・ブランカス、ポーゼン・リユー) 。および教育政策セクション (ヤセル・コスパ、ポーラ・ラズキン、アンネリー・ストラス)。

GEM レポート チームは、レポートの分析に影響を与えた背景資料を作成した次の研究者に感謝します: Ghaida Alrawashdeh, Lynn Ang, Nathan Castillo, Dandan Chen, Anna Louise Childs, Elisabeth Herbert, Jo Van Herwegen, Ben Janssen, Hannah Metcalfe, カール・モーグ、ローラ・アウトウェイト、マリア・フロレンシア・リパーニ、ロバート・シューワー、エマ・サムナー、ジョシュア・パレタ、イヴァナ・ザカリアス、ディエゴ・バスケス・ブルスト、ダン・ワグナー、ロンダ・ゼレズニー＝グリーン。

チームはまた、背景資料を作成したいくつかの機関とその研究スタッフ、コンサルタントに感謝します。Alliance for Affordable Internet (Nathalia Foditsch, Sonia Jorge, Evelyn Namara, Ana Maria Rodriguez)。香港大学教育情報技術センター (Nancy Law, Frank Reichert, Qianqian Pan)。GIZ (アリサ・ブッフスタブとアイリーン・フォン・ラウツ＝コーザネ); インド工科大学ボンベイ校 (Leena Bhattacharya, Chandan Dasgupta, Sahana Murthy, Minu Nandakumar)。ラニア女王教師アカデミー (ヘバ・アブ・ジバラ、ネダ・アル・ノイミ、ナビラ・バシル、シルウィア・ホームズ、ローラ・サイド)。教育への権利イニシアチブ (デルフィン・ドルシ、ジュリアナ・リマ、スージー・タルボット)。サドスキー財団 (マラ・ボルチャード、エルナン・チェメリンスキー、ナタリア・ロッカ、マリア・セシリア・マルティネス)。タタ社会科学研究所 (サダカット・ムラ、アヌシャ・ラマナタン、ピンドゥ・ティルマライ)。オスロ大学 (モニカ・グレース・アムハ、シーディ・アーメド、ジャロウ、ソフィア・コウシアキス、テリエ・アクセル・ザナー、クヌート・スターリング、ベジューナル・ヴァルボ)。

さらに、2023 GEM レポートのコンセプトノートに関する協議を主催した多数の機関、および協議プロセス中に意見を提供してくれた多くの個人や組織に感謝します。特に、All Children Reading: A Grand Challenge for Development, Brains Global, CETIC.br, 中国国家教育科学アカデミー、Fundación Ceibal、ドイツユネスコ国内委員会、Global Action on Disability Network、Inter-agency Network for Education inに感謝します。緊急事態、国際教育資金グループ、教育のための教師に関する国際タスクフォース 2030、モナシュ大学、NORRAG、ProFuturo、Open University UK、イベロアメリカ諸国機構、RewirEd、UNESCO Brasilia、UKFIET、UN Etxea、UNESCO-UNEVOC、University of Universityエディンバラと米国国際開発庁。私たちはまた、この報告書の作成に貴重な意見を提供してくれたグローバル教育パートナーシップ、国連難民高等弁務官事務所、その他の組織、並びに協議プロセスに参加した大臣、政策立案者、専門家、学者に感謝したいと思います。

推奨事項草案と権利擁護戦略に関してフィードバックを提供して下さった友人グループの指導に感謝します。彼らは、アンソロジー、ブルッキングス、欧州委員会、エデュケーション・インターナショナル、ヒューマン・ライツ・ウォッチ、国際電気通信連合、ライト・フォー・ザ・ワールド、マイクロソフト、レス・トレス・デベロップメント、教育の権利に関する特別報告者、およびユニセフの団体を代表しました。

専門家のグループがテーマ別の章草案を検討し、貴重なフィードバックを提供しました。ご協力いただいた Cristóbal Cobo、Lucia Dellagnelo、Bart Epstein、Velislava Hillman、Gouri Gupta、Joseph Nsengimana、Dominic Orr、Neil Selwyn、Victoria Tinio、Riina Vuorikari に感謝します。Mary Burns はこのグループのメンバーであり、背景調査を提供し、レポートのコンセプト ノートに情報を与えた考察記事を寄稿しました。

テーマおよび国固有の知識、メッセージングに関する戦略的アドバイス、章のレビューと調査を提供してくださった Edtech Hub に感謝します。私たちは、事務局長の Verna Lalbeharie とそのチーム (専門家グループのメンバーでもある David Hollow と Joel Mitchell、Rebecca Daltry、Jonny D'Rozario、Julia Pacitto、Jennifer Simmons Kaleba、Janice Sequeira) に感謝します。背景論文に貢献した研究者: Katy Jordan、Christina Myers、Asma Zubairi、ケイティ・ゴドウィン、ビヨルン・ハスラー、アラスデア・マッキントッシュ、クリス・マクバーニー、アナ・バオラ・ラミレス、アレハンドラ・ヴィジル、トニー・カムニンガ、スーザン・ニコライ、ティンティン・ルイ、チェット・セルゲット。サラ・ヘネシー、タシーン・アダム、ソフィア・ダンジェロ、リディア・カオ、サーリム・クマー、アダム・クレイメリア。貴重なものを絞ったフィードバックを提供してくれた Tim Unwin に特に感謝します。

東南アジアおよび太平洋に関する今後の地域版に関連して、私たちはパートナーである東南アジア教育大臣機構 (事務局長のエセル・アグネス・バスクア・ヴァレラ エラ氏とハビバ・アブドゥル・ラヒム氏も) に感謝の意を表したいと思います。ジョン・アーノルド・サシシエナ氏とエミール・ジョン・カラムナ・センチリヤス氏、学習連邦 (最高経営責任者アシャ・シン・カンワール氏、サンジャヤ・ミシュラ氏、ジャコ・オリヴィエ氏)。

このレポートは Andy Quan によって編集されました。彼のたゆまぬ働きに感謝します。

また、ユネスコ内外で報告書の作成、デザイン、印刷、翻訳を支援するために尽力した個人や団体に敬意を表し、感謝の意を表したいと思います。細部まで細心の注意を払ってくださったコピー編集者および校正者のジェニファー・アレイン、イライザ・ベネット、レベッカ・ブライト、ジーナ・ダブルデイに特に感謝します。

Optima Graphic Design Consultants Ltd のチーム (James Gore、Daniel Sharratt、Anastasia Beedham、および Jules Parker) のレイアウトとグラフィック デザインにおける効率のかつ詳細を重視した作業により、レポートの視覚的な魅力が大幅に向上したことに感謝します。さらに、コミュニケーション資料の作成において貴重なご支援をいただいた Housatonic の Veronica Maccari 氏と Elena Vasumini 氏に感謝いたします。ユニセフは写真を広範囲に使用する許可を与えてくれたことに感謝するに値します。

翻訳とフォーマット化にご協力いただいた Strategic Agenda に感謝の意を表します。

さらに、オンライン リソースの設計に貢献した HiTeki (Hossein Aghvami) と Interactive Things (Patrick Browne、Beatriz Malveiro、Christian Siegrist、Solange Vogt) に感謝します。

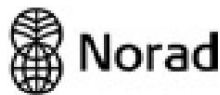
最後に、Ameer Dharamshi 氏、Yixuan Chen 氏、Ipsita Dwivedi 氏、Syeda Armeen Nasim 氏、Patricia Roy 氏を含む短期コンサルタントとインターンに感謝します。各国のプロフィールに貢献してくれたバリ第 1 バンテオン・ソルボンヌ大学の学生、Yeonhyeon Kim と Luciana Pando にも感謝します。

グローバル教育モニタリングレポートチーム

監督: マノス・アントニニス

ベンジャミン・オルコット、サマヘル・アル・ハデリ、ダニエル・エイプリル、ピラル・フアド・バラカット、マルセラ・バリオス・リベラ、エカテリーナ・バスカコフ、マデリーン・バリー、ヤスミン・ベックウーシュ、ダニエル・カロ・バスケス、アンナ・クリスティーナ・ダディオ、ドミトリ・ダビドフ、フランチェスカ・エンドリツィ、スティーヴン・プリン、ララ・ギル、チャンドニジャイナ教、プリヤダルシャニ・ジョシ、マリア・ラファエラ・カルディ、ジョセフィーヌ・キエンジェ、ケイト・リンキンス、カミラ・リマ・デモラエス、アリス・ルカテロ、カッシャーニ・ミズランゴミティス、アニッサ・メクター、パトリック・モンジュリデス、クロディーヌ・ムキズワ、村上勇樹、マヌエラ・ボンボ・ポランコ、ジュディス・ランドリアナート・アヴィナ、ケイト・レッドマン、マリアロジノフ、ディヴィヤ・シャルマ、ローラ・スティパノヴィッチ、ドロシー・ワン、エルサ・ワイル。

グローバル教育モニタリングレポートは、独立した年次出版物です。GEM 報告書は、政府、多国間機関、民間財団からなるグループによって資金提供され、ユネスコによって促進および支援されています。



詳細については、以下にお問い合わせください。

グローバル教育モニタリング報告チーム、ユネスコ、7、place de Fontenoy
75352 Paris 07 SP, France 電子メール:

gemreport@unesco.org

電話番号: +33 1 45 68 07 41

unesco.org/gemreport 印刷

後に見つかった誤りや脱落は、unesco.org/gemreport のオンライン版で修正されます。

グローバル教育モニタリングレポートシリーズ

- 2023年 教育におけるテクノロジー: 誰が利用するツール?
- 2021/2 教育における非国家主体:
誰が選ぶの? 誰が負けますか?
- 2020年 インクルージョンと教育: すべてはすべてを意味する
- 2019年 移住、避難、教育:
壁ではなく橋を架ける
- 2017年8月 教育における説明責任:
私たちの約束を果たす
- 2016年 人と地球のための教育:
すべての人にとって持続可能な未来を創造する

EFAグローバルモニタリングレポートシリーズ

- 2015年 すべての人のための教育 2000 ~ 2015:
成果と課題
- 2013/4 教育と学習: すべての人に質の向上をもたらす
- 2012年 若さとスキル: 教育を活用する
- 2011年 隠れた危機: 武力紛争と教育
- 2010年 疎外された人々に到達する
- 2009年 不平等の克服: なぜガバナンスが重要なのか
- 2008年 2015年までにすべての人に教育を: 達成できるでしょうか?
- 2007年 強力な基盤: 幼児期のケアと教育
- 2006年 生涯にわたる読み書き能力
- 2005年 すべての人のための教育: 質の重要性
- 2003/4 すべての人のためのジェンダーと教育: 平等への飛躍
- 2002年 すべての人に教育を: 世界は順調に進んでいますか?